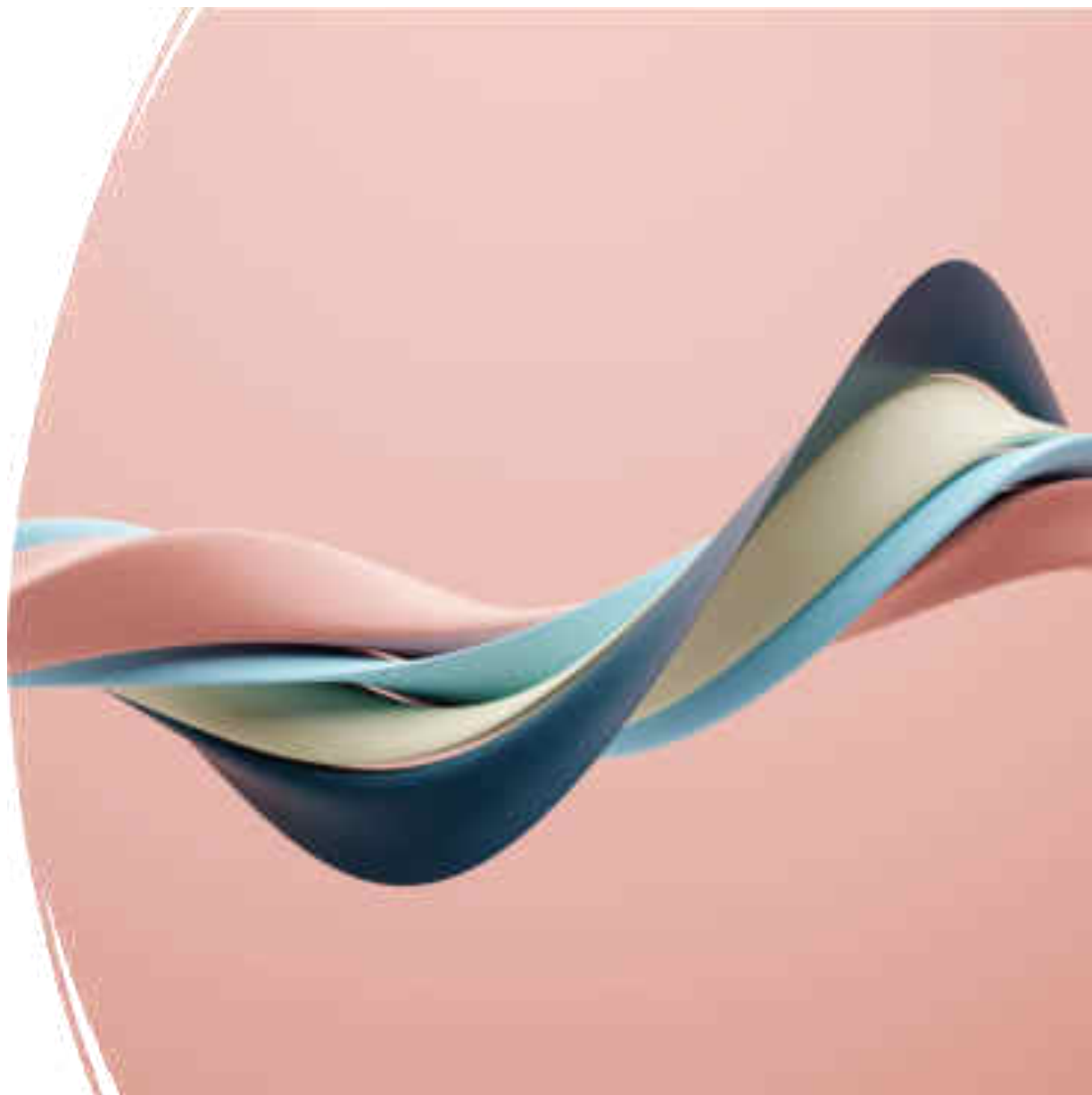


「ちいさなしあわせ を重ねるふるさと」 をつくる

—労働者協同組合という担い手—

牧野 篤

(東京大学大学院教育学研究科)



人と人との「かかわり」を

働き方へ

そして、

生き方へ

と練り上げる

Well-being:

よりよく生きる？

(positive)

よりよくいる？

(存在)

よく在る？

(状態)

そう在るようにして在る

(常態)

そう在るようにして在らしめられる (passive)
そう在るように受け入れあう



1. 「よきこと」に気づき、実践する
: コロナ後の社会への希望

コロナ禍で起こった「恩送り」

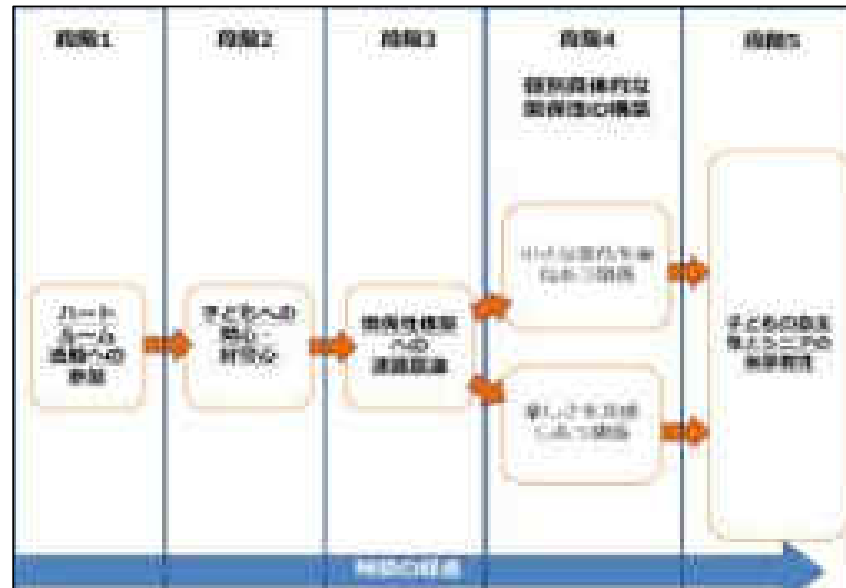
地域の高齢者を心配して布マスクを縫って届けた中学生たち

校区の子どもたちのために布マスクを縫って配付した高齢者住民たち

『中日新聞』(岐阜地域欄)2020年4月17日

⇐互いに相手を考えて、うれしかった！！

高齢者と子ども双方に信頼感にもとづく変化が



住民によるマスクづくり



「恩送り」：自分への見返りを考えずに、相手によって「よきこと」をする
↳ **基本的に、次の世代を育むこと = 社会をつなげること**

↳ **「長い箸の寓話」**

↳ **ルソーの「一般意志」**

私たちが社会をつくっていることの基盤

Compassion

⇒ **Compassionate Community (苦しみ・悲しみを分かちあう社会)**

相手への想像力、「よきこと」に気づく、実践する

2. 根源的危機の時代へ

「平成」はどこに行った？

平成時代：1989年～2019年

バブル全盛期⇨バブル崩壊

日経平均株価3万5000円⇨7608円⇨2万9000円

1ドル=79.75円（戦後最高値）

GDP世界第3位に後退

銀行合併

郵政民営化

国の借金1000兆円超

ゼロ金利・マイナス金利

東西冷戦終結

阪神淡路大震災

東日本大震災

地下鉄サリン事件

リストラ 自殺者3万人超

就職氷河期

少子高齢化・人口減少

Windows

iPhone iMac iPad

「激動」なのに
「空白」

危機
とい
「変
(crisis)の時代
われて30年
化なし」の感覚

昭和時代
1926年～1989年

令和時代
2019年～

あと2年で昭和100年

バブル
コロナ
平成
この
崩壊までが昭和
禍後から令和
30年間「変化なし」
30年間、昭和が蓋をしてきた

危機 : crisis = 岐路

危機の時代には、未知の大海に向けて「希望」を描く「勇気」が必要
希望へのビジョンが「危機の時代」の痛みを耐えさせる

⇒ **新しい試みがビジョンとなる（労働者協同組合も）**

だが．．．．．

いまや、**根源的危機の時代**へと立ち至ってしまったのでは？

天文学的には、50億年後には地球は消滅し、

また数か月後に天体衝突で人類が絶滅する可能性はある。

しかし、今世紀末（100年後）には人類は、過去に経験したことがないほどの過酷な環境で生きることが余儀なくされる。どれくらい過酷な状況になるかは、現在の我々がとる態度次第である（天文学者・岡村定矩東大名誉教授）

（神野直彦氏提供資料[人生100年社会デザイン財団フォーラム20230510]参照）

「危機の時代」を襲うパンデミック + 気候変動

内在的危機：人間の社会がつくる危機 = 経済恐慌・戦争など

外在的危機：人間の社会がつくったのではない危機 = 自然災害・病疫など

「危機の時代」：内在的危機が噴出する構造的転換期

しかし、深刻な危機の時代には内在的危機に外在的危機が重なる

農業社会から工業社会への転換期：黒死病(ペスト)のパンデミック

= 1347年～53年にヨーロッパ人口の3分1(約2500万人)が死亡

軽工業社会から重化学工業社会への転換期：スペイン風邪のパンデミック

= 第一次世界大戦中1918年から20年にかけて、約5000万人が死亡

第一次世界大戦・第二次世界大戦の合計死者より多い

工業社会からポスト工業社会への転換期：新型コロナウイルス感染症のパンデミック

ここへさらに、気候変動

(神野直彦氏提供資料[人生100年社会デザイン財団フォーラム20230510]参照)

Rapid social change

社会の変化のスピードが速くなっている



旧石器時代
1 万年以上前



平安時代
1000年前



明治時代
150年前



現代
2020年



**10000
years**



**1000
years**



**150
years**



**10
years?**

人間が大人になるまでの
期間より短い

岩岡寛人・(一社)ディレクトフォース・シンポジウム資料(20230726)より

世界的な課題を、直接、日常生活で引き受けなければならない時代

人生100年社会

**気候変動・感染症パンデミック・格差・貧困・孤立・人口構造の激変
Society 5.0・DXの進展・AIの急速な発達、そして戦争**

予測不可能な時代⇒自己防衛・内向化・将来不安

国家という枠組みへの急激な回帰⇒不寛容な社会へ

Well-being

**←民主主義とは何か
価値選択を迫られる**

根源的危機の時代は、大きな転換点

このような時代にこそ、足下の「生活」「地域社会」を見つめる必要

**先達・私たちが創ってきた「よい社会」をどうつなげていくのか
社会を「恩送り」する
「恩送り」の社会へ**

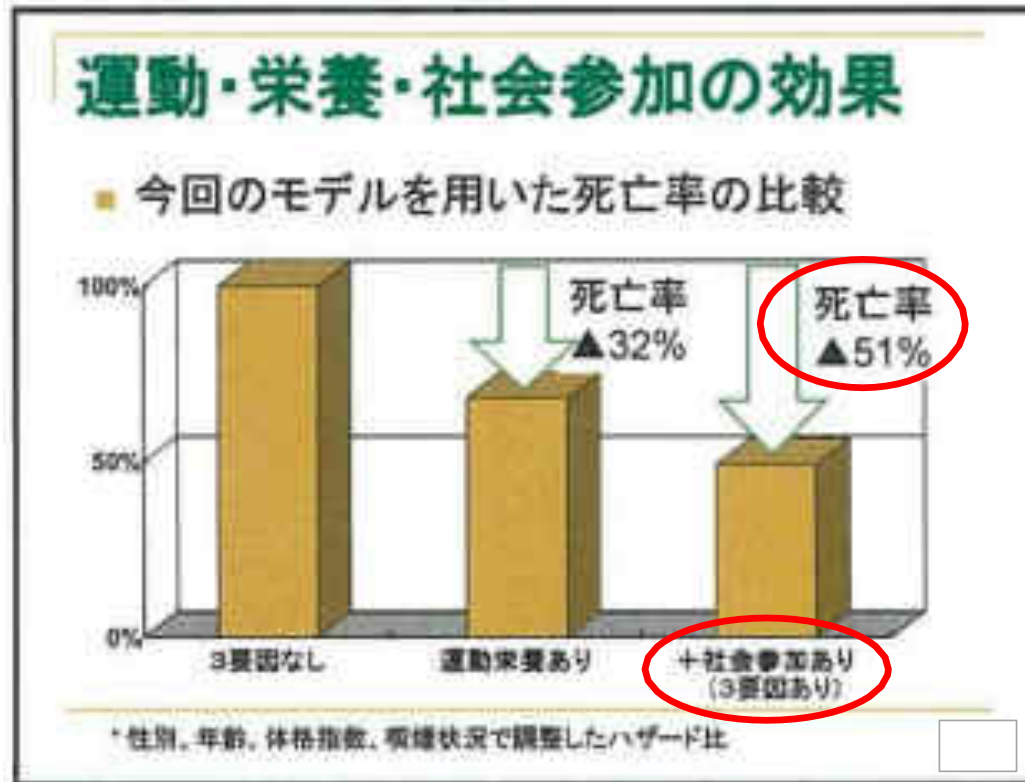
⇒ 社会の持続可能性を高め、誰もがウェルビーイングを実現できる社会へ

3. 「かかわり」が大切な社会へ

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】

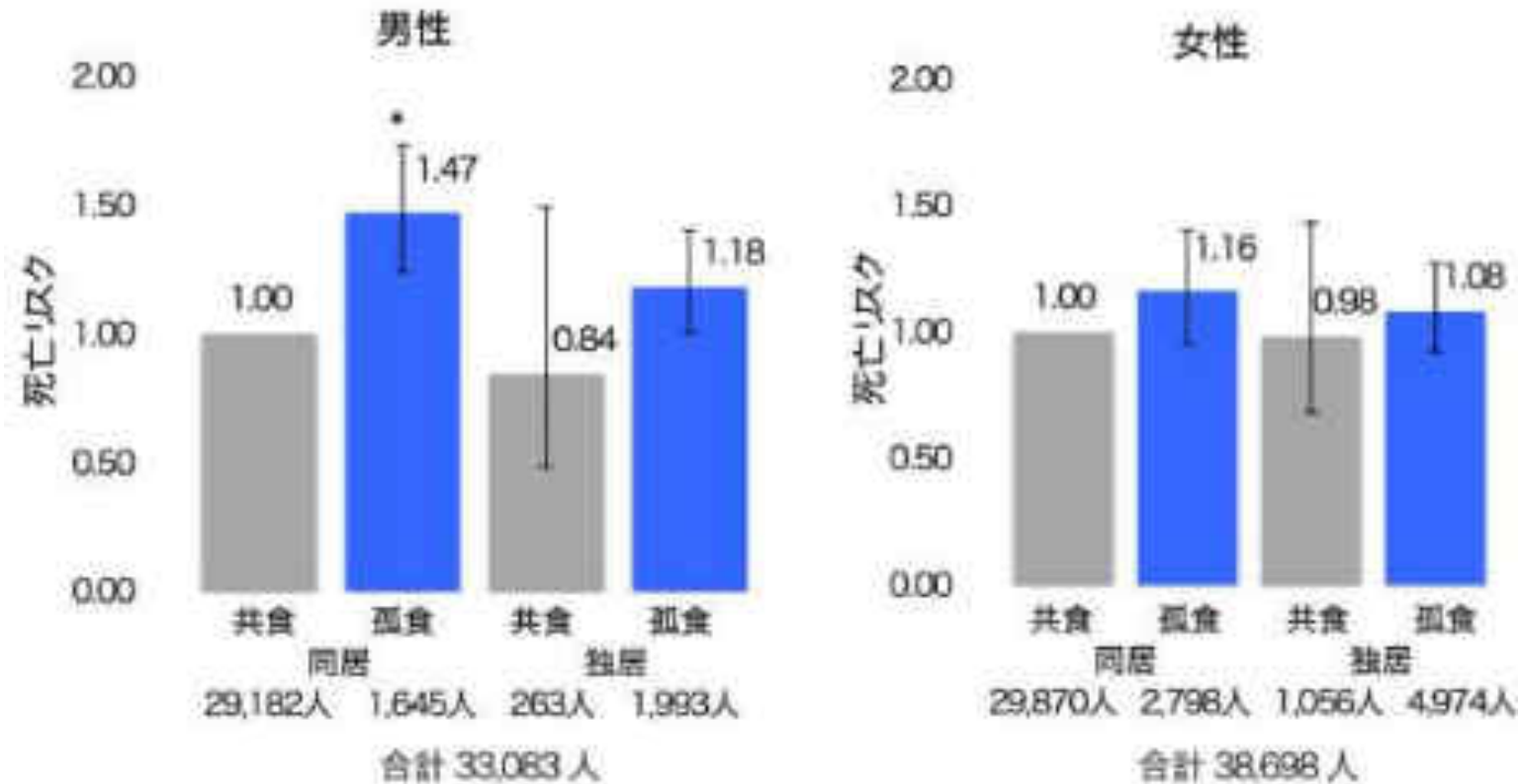
○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

データの例

高齢者の孤食と死亡との関連 男女別)



年齢、治療中の疾患、生活機能、教育歴、経済状況の影響を調整しています。

*は統計的に有意な関連があったことを示しています。

武田俊彦「人生100年時代の医療と暮らし～いのちといきがいと人生～」、
(一財) 人生100年社会デザイン財団デザインフォーラム、20220316資料より

(出典) 東京医科歯科大学
Press Release No. 103-16-33

若者の動向

公民館など地域の活動に熱心に取り組む層には、
共通して15歳までの地域活動の分厚い体験がある

(東京大学牧野研究室と飯田市公民館との2014-15年度共同研究)

若者の移動・コミュニティへの定着

利便性より自然環境
地域参加意識
競争より充実
自然相手の仕事
仕事が生活

→ 受け入れられること
文化的なもの
地域社会重視

中山ちなみ「若者の地域移動と居住志向：生活意識に関する計量分析」、『京都社会学年報』第6巻、1998年

高齢者の認知能力の加齢に伴う変化

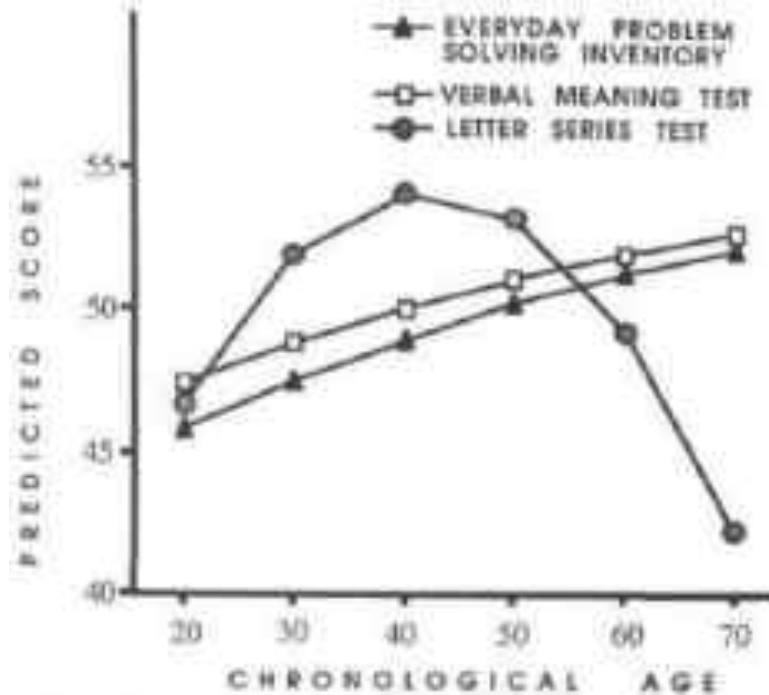


Figure 1. Regression lines displaying predicted levels of performance on ability tests as a function of chronological age. (Ability performance is measured in standardized T scores [$M = 50$, $SD = 10$].)

短期記憶は低下する

言語能力と日常生活問題解決能力は
伸び続ける

言語能力と問題解決能力は
人間関係に依存する

ボランティア活動が大学生のメンタルケアに有効
=メンタルヘルスにおいて自己肯定感・自尊感情を高め
首尾一貫感覚やレジリエンスを向上させる

和 秀 俊

「大学生のメンタルヘルスにおけるボランティア活動の可能性」

調布学園大学紀要 第13号 2018(平成30)年度

<https://core.ac.uk/download/pdf/236372129.pdf>

高齢者のボランティア活動参加者は、非参加者に比べて、
うつ病罹患率が有意に低い

田村元樹他「高齢者のボランティアグループ傘下と個人の撃つ傾向との関連：

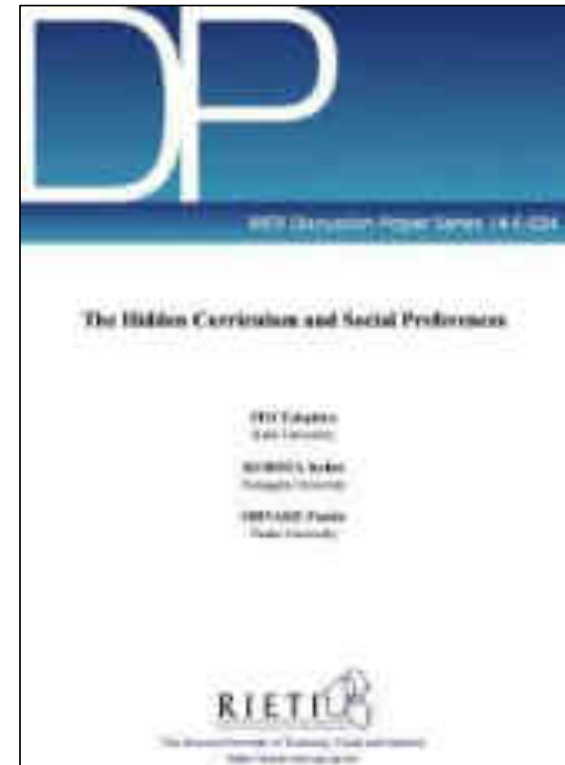
傾向スコアマッチング法を用いた3年間のJAGES縦断研究」

日本公衆衛生雑誌 J-STAGE早期公開

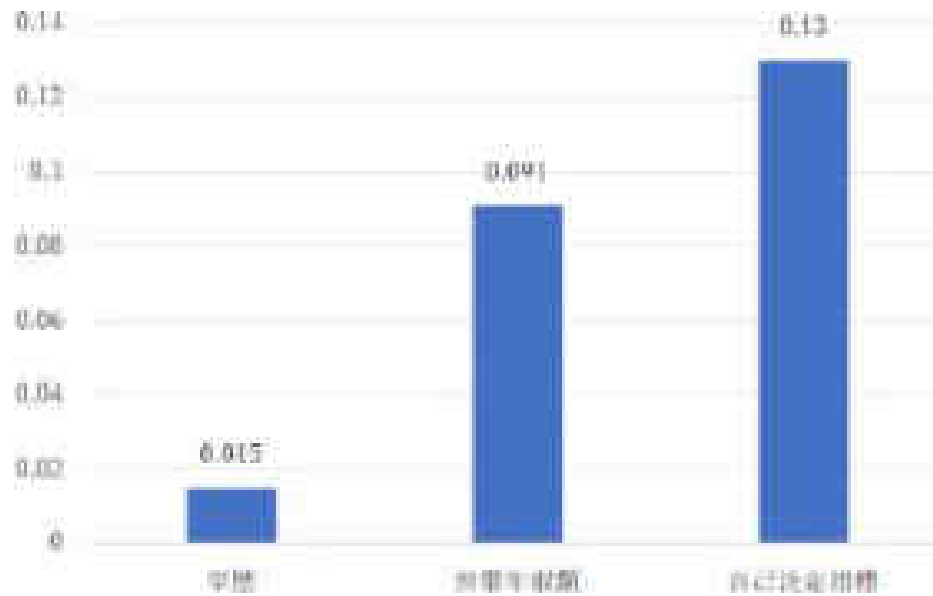
https://www.jages.net/kenkyuseika/paper_ja/?action=common_download_main&upload_id=12843

小学生時代にボランティアなどの
経験を積んだ者は社会貢献意識が高まる

参加・協力を経験した子どもは、他
者のために行動することを好み、利
他性と互惠性が高まり、
他人への協力を好み、
国への誇りを持つようになる傾向がある



主観的幸福感を決定する要因の重要度（標準化係数）



健康・人間関係に次いで
人生選択における自己決定が
有意な要因に



西村和雄・八木匡「幸福と自己決定—日本における実証研究」

<https://www.rieti.go.jp/ip/publications/nts/18j026.html>

人は「かかわり」の存在

「かかわり」が子どもを含めた人々の精神や意識を決める

**4. 「認めあう社会」（〈ちいさな社会〉）
をたくさんつくる**

コミュニティと「学び」が焦点に

**←日本社会は明治以降、国の枠組みが動揺すると
コミュニティが政策的ターゲットになる**

総務省：地域運営組織・地域生活総合支援サービス

厚生労働省：地域包括ケアシステム・地域共生社会づくり

国土交通省：国土強靱化・防災訓練

まち・ひと・しごと創生会議：小さな拠点

経済産業省：未来の教室、半径50センチ革命、STEAMライブラリー

農林水産省：農村RMO(農村地域づくり事業体)

文部科学省：コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、GIGAスクール

全国社会福祉協議会：福祉教育から社会教育へ

政府：人生100年時代構想会議

主要テーマ：学び直し・リカレント教育

a. 過疎・高齢中山間村の活性化事業



2009年に開始、以来14年間のとりくみ、現在も展開中

基本的考え方：「農的生活」を基本として、新しいライフスタイルをつくる
現地の高齢者の文化や生業を基盤に、都市の若者文化を融合する
自然環境配慮型のライフスタイル

単能工の都市民を多能工の「農的生活者」に組み換える
「農的生活」とは農業の生活ではなく、様々な生業を行う生活
多能工的な「農的生活者」は多様な能力を啓いた生活者

プロジェクト開始時10名の若者が、いまでは60名になり、子どもも40名ほど生まれた
一人あたり年収は現金で300万円超、現物を入れると600万円ほどとなり、
全国平均を超える

**地元の過疎・高齢化は
人口が増えていた時代から起こっている**

過疎・高齢化は経済構造とかかわっている

「博打」をとるのか「麻薬」をとるのか

経済構造が生んだ文化が人を動かしている

**働き口があるかないかは
若者の移動にかかわりがなくなっている**

**⇒ 少子高齢人口減少という長期トレンドとは
あまりかかわりが無い**



すべての写真：戸田友介氏提供

























旭と小原の山里の新聞店

中日新聞をはじめ、朝日新聞、毎日新聞、日経新聞、スポーツ新聞、英字新聞、業界紙、雑誌、書籍など、スタッフ36名でお届けしています。

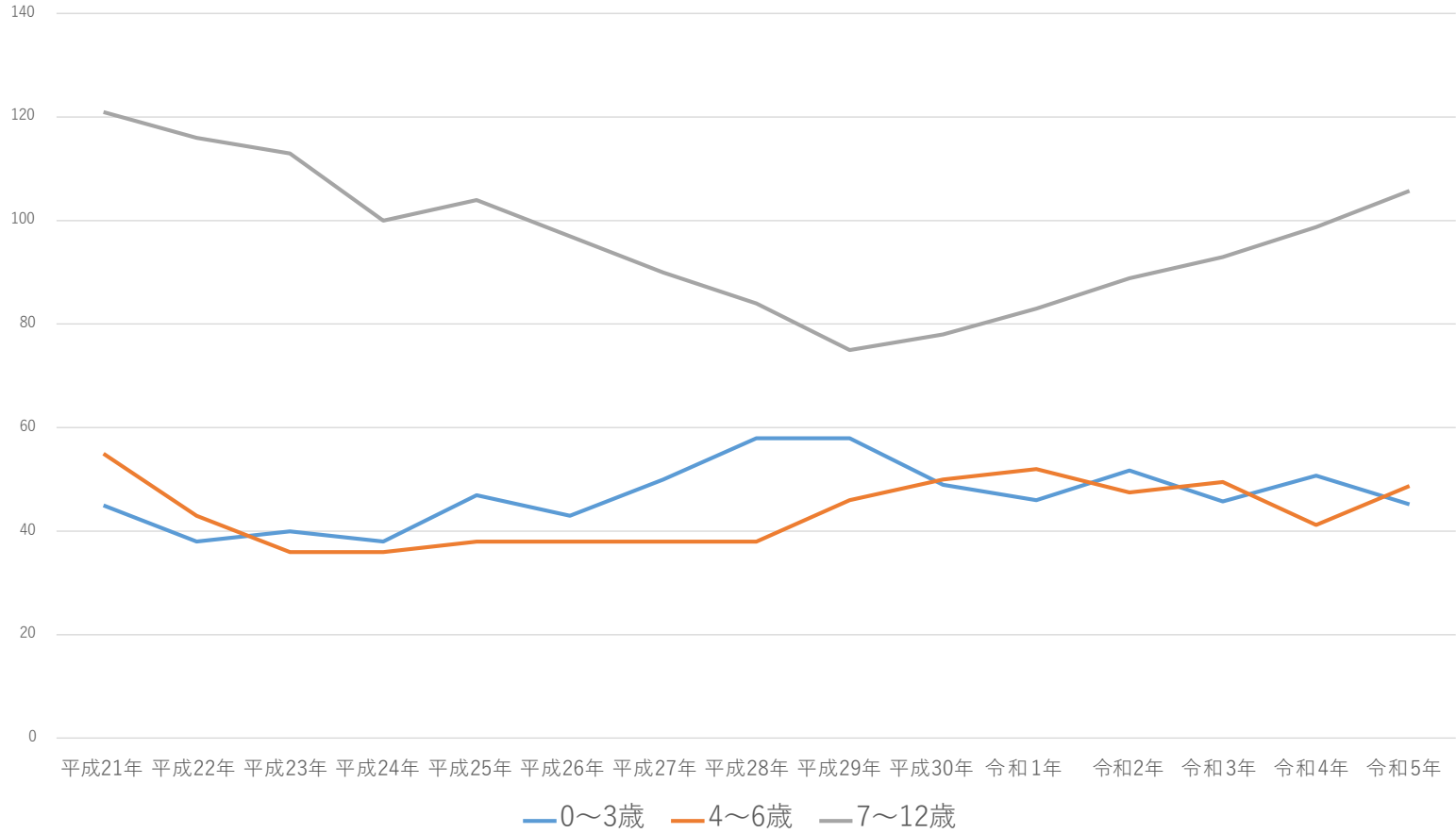








旭地区子ども人口推計（10月1日時点）





地域を担う人材創造拠点
つくラッセル



築羽小学校閉校式



2012年3月





お披露目会(20180511)





施設内部





50年前の卒業生同窓会



近隣のばあちゃん
クラフトバッグづくり



マレットゴルフ場の整備



いなかのものづくり拠点
自在工房





タイからの研修受け入れ





かかわりあう
共に感じる、動く
励ましあう





つくばレクバレーボールクラブ



休憩室



コワーキングスペース



Man to Man株式会社
テレワーク

うたごえカフェ校長室 (認知症カフェ)
豊田市社会福祉協議会共催



シェフ伊藤
Cooking
教室



山里手習い塾



企業研修・大学ゼミ研修

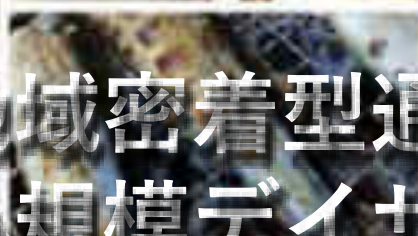




各々、勝手に便利だけで済まかった
世界が回る。人々への愛着が生まれる



竹々木々工房



地域密着型通
小規模デイサ
あんじゃない

**移住した青年たちが、地元の高齢者に寄り添いつつ、
ともに生活する場の創造
地元の文化・生活を新しいライフスタイルへ
集落全体をグループホームのように形成する**



新たな試み2：シェアリング・エコノミーの実験

シェア・ハウスの整備



シェア・オフィス



カー・シェア(電気自動車)



シェア・カフェ



**仕事を分け合い、シェアリング・エコノミーを実現する
生活を支えあい「多能工」になる**

中山間村が多世代共生のグループホームに

中山間村がエネルギーの自立圏に

**旧来の工業社会では価値がなかった中山間村が
日本の先端地域に**

→この労力・サービスの交換が
社会の基盤を安定させる
GDPに貢献しなくても、
社会全体の安定には寄与する
→生活満足度の向上=GNHの向上

この基盤の上で、自由に金儲けを考えるべき

楽しい生活の文化

仕事を分け合う

生活を支えあう

地域全体をグループホームに

エネルギーの自立圏へ

中山間地が日本の最先端地域へ

b. 少子高齢人口減少社会を「関係」から考える

集落を消滅の危機から救う「自給家族」



「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

一般社団法人押井営農組合

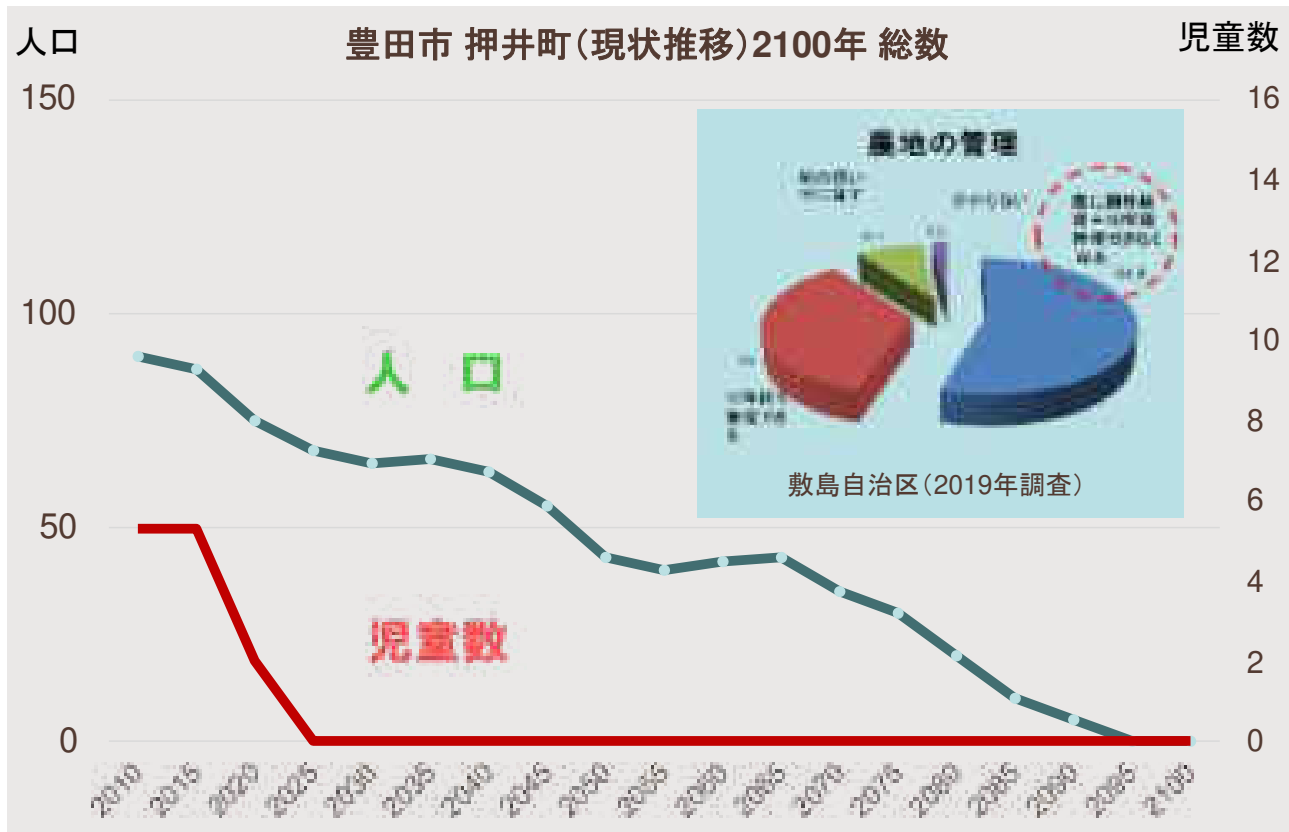


以下、鈴木辰吉氏提供スライド/2022.9.17ソーシャルイノベーター研修自給家族.pdf



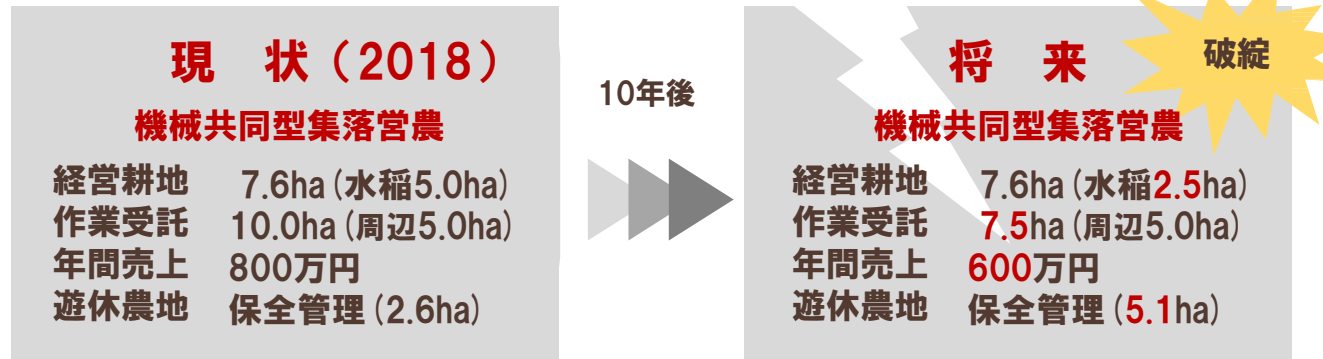
押井の里「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

このままでは、農地荒廃・押井の里は消滅



名古屋大学 / 小地域ごとの簡易人口推計ツール

押井の里・押井営農組合のチャレンジ



源流米ミネアサヒCSAプロジェクト

Community Supported Agriculture

① 一般社団法人設立 農地集約化

「地域まるっと中間管理方式」による安心で確実な集約

② 米の自給家族

「つながり消費」を指向する100家族と長期栽培契約

③ 機械設備拡充

ライスセンター・保冷库など自給家族に必要な設備拡充

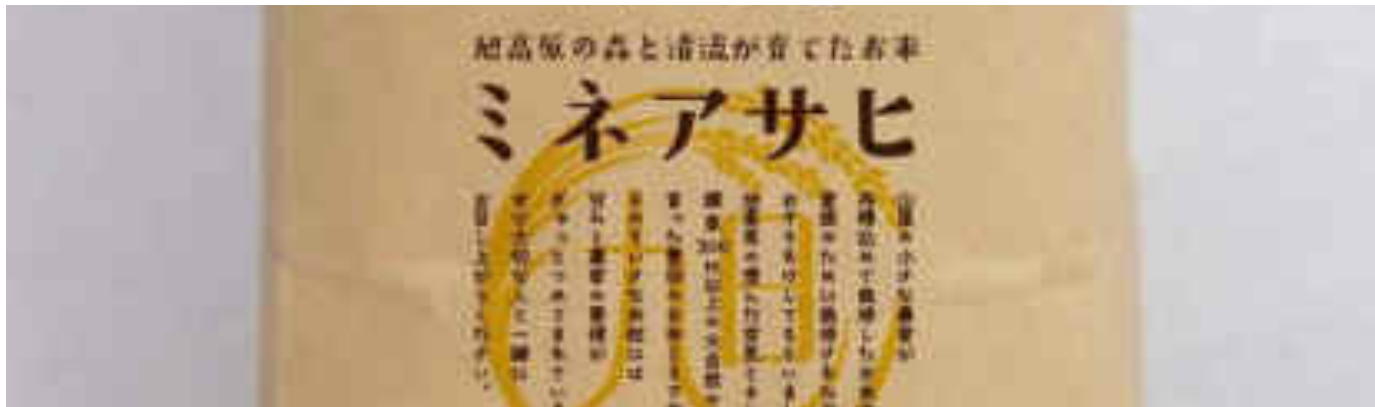


① 農地集約化





② 米の自給家族



米の自給家族押井の里の家族を増やす



- ① 3～10年の長期栽培契約者「自給家族」を募る
- ② 契約者は、1俵30,000円の栽培経費を前払いする
- ③ 契約に基づき「特別栽培米」として生産、保管する
- ④ 「自給」の喜びもリスクも共有する
- ⑤ 10kg単位で取扱、楽しく交流する

**得意の米で農地が守られ、食の安心を保証、
双方の暮らしが豊かに、楽しくなる。**

生産者と消費者がつながって、双方が豊かになる

「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

押井の里のメリット

- ・里の営みが続き
農地が守られる
- ・集落が消滅の危機から
救われる
- ・「関係人口」が生まれ
暮らしが楽しくなる

親戚の米を
少し多めに
作るようなもの

米の「自給家族」

押井の里家族
(営農組合)

WIN-WIN
の関係

新しい家族
(契約者)

一つの家族となって、
自分たちが食べる安全で
美味しいお米を自給します。

新しい家族のメリット

- ・安全で美味しいお米が
確実に手に入る
- ・地球や人に優しい
消費に貢献できる
- ・自然や人の温もりを感じ
暮らしが楽しくなる

少し豪華な
「精米オーナー」
のようなもの



③ 機械設備拡充



99家族が2.4haの農地を守る 自給家族の現状（2022年9月現在）

居住地域	市内35、県内41、県外23（東京、京都、大阪など）
契約数量	2022年産契約数量133俵（世帯平均1.5俵）
契約年数	6～10年32件、3～5年53件、1～2年お試し14件

クラウドファンディングの返礼品として、高額寄付者（3万円以上）に付けた「自給家族優先権」の30家族が、家族の輪を広げてくれた。



自給家族の収穫イベント

「自給家族」は自治の営み

生産者と消費者が一つに
なって農村と食を守る

「自給家族」は、土地に根差した食と農の営み。農の営みが続く限り集落は存続し、家族に安全な食の確保が保証されるシステム。

迎える「少数化社会」の山村は、開かれた共同体中心の社会（Open Common「関係人口」と共につくる新しいコミュニティ）によってのみ存続できる。

「自給家族」は押井の里の登録商標です



誰も損も得もしない、みんなが 少し幸せになる「自給家族」

ここがポイント

- ① 集落が家族になる ⇒ 新たな家族を増やす
- ② 地域まるっと中間管理方式 ⇒ 現代の庄屋
- ③ 新たな消費志向 ⇒ 食の「自給」と安心感
- ④ 山村集落の存続 ⇒ 美しい農村景観を守る



ゆるゆると、楽しんで集落を守る！

経済が社会をつくり、生活を保障し、社会を引っ張る



**学び・教育が「かかわり」をつくり、生活を組み換え、
社会をつくり、経営し、経済を引っ張る**

米一俵を30000円で

米を買うだけではない

「かかわり」をつくる

生活をともに維持する

農業をともに維持する

農地をともに維持する

環境をともに維持する

「かかわり」を通して

農業における物質代謝を適正化する



**ある種のアソシエーションとしてのコミュニティ
よそ者が「当事者」になる**

5. 「楽しさ」に駆動される社会

**〈ちいさな社会〉づくりの取り組みは
何をやっているのか**

**相互承認関係をつくる
非認知能力を向上させる
社会に信頼感をつくる**

**人々が自律する
自己肯定感を持てるようになる**

**曖昧でゆるやかで、
関心をもつ人々が
多重に覆い被さることが必要**

A: Anticipation

R: Reflection

Anticipation : 予期する・予測する
⇒何か「楽しいこと・嬉しいこと」
を考えてウキウキする

Action : やってみる

Reflection : 振り返る
⇒評価しない
振り返って、さらにAnticipation
どんどん多様になる

A: Action

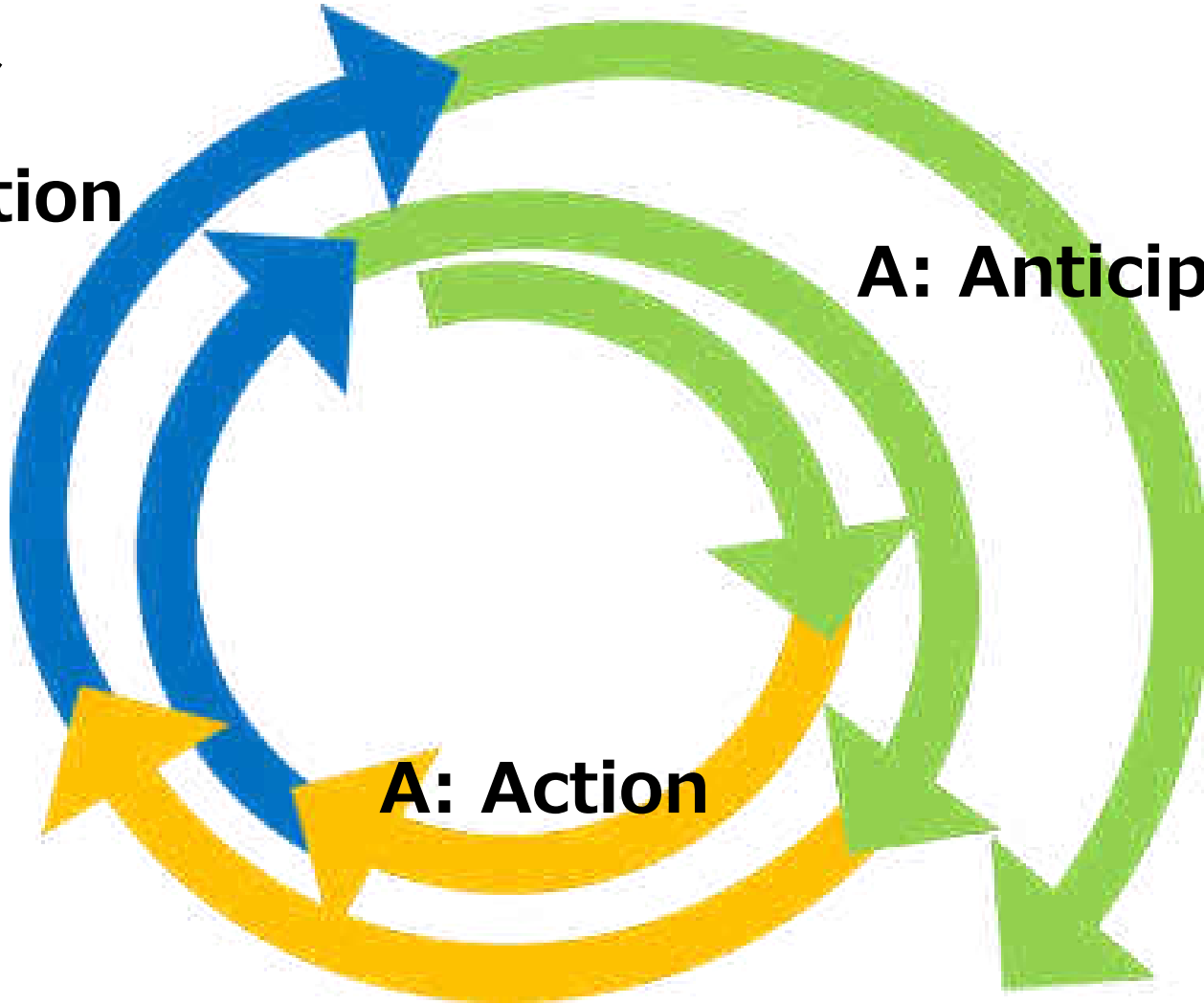
参考 : OECD Learning compass 2030
https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning-learning-compass-2030/in_brief_Learning_Compass.pdf

実際は

R: Reflection

A: Anticipation

A: Action



**この開放系の試行錯誤のプロセスそのものが「学び」
「楽しさ」「愉しさ」に駆動される**

6. FOR ALLの上にBY ALLへ

**各地で、子どもたち（中高生）が自治会の役員に
子どもたちもすでに社会の担い手に
⇐おとなたちが愉しそう・おとなが受けとめる**

朝日新聞デジタル20220530

https://www.asahi.com/articles/ASQ5W4CSRQ5TULOB01G.html?iref=pc_ss_date_article

「よきこと」に気づき、実践する

⇒ 社会に「共通善」を実践する営み

「かかわりあい」を「公共財」として実装する事業

全員が当事者になる

**自分を尊重してもらえ
相手を尊重している**

信頼感と想像力

7. 「はまる」と、「育つ」

強い個人の「自立」ではなく、
みんなとの「かかわり」の中に
「はまる」と動くし、「育つ」

Maslow's Law



Jigsaw-puzzle model



上田假奈代「こえとことばとこころの部屋ココルーム」、東京大学大学院教育学研究科社会教育学研究室主催公開講座「社会教育の再設計・シーズン3」における講義（第2回・2022年2月17日、オンライン）

「はまる」とは

**みんなに巻き込まれて
みんなと一緒に、
ウェルビーイングの主体に、
なること**

⇒自ら動く「自治」の主演となること

8. 「ふるさと」は「ひと」

「ひと」との「あいだ」が自分の居場所になる

「ひと」が「ふるさと」となる

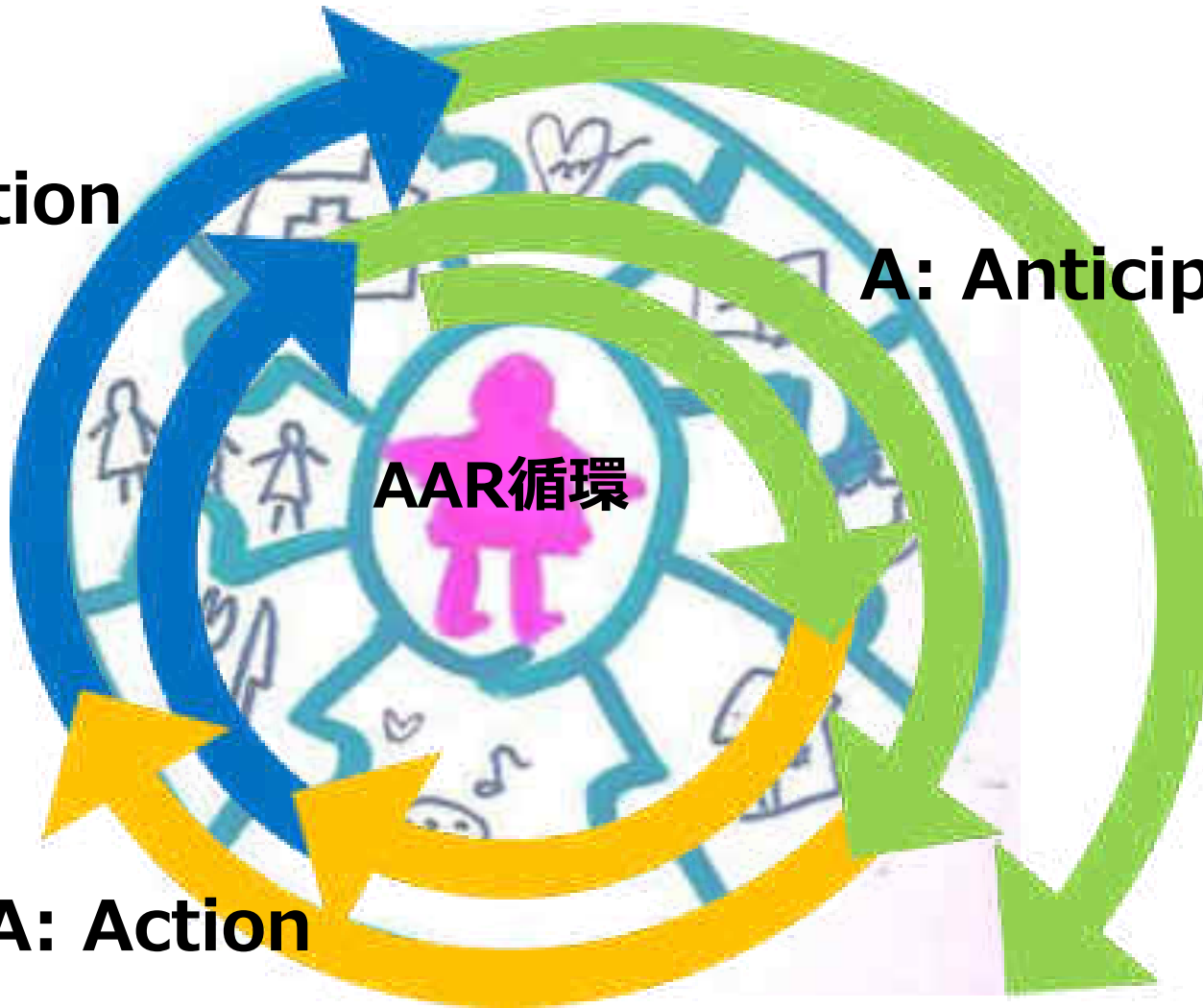
「ふるさと」とは自分に「誇り」を持てること

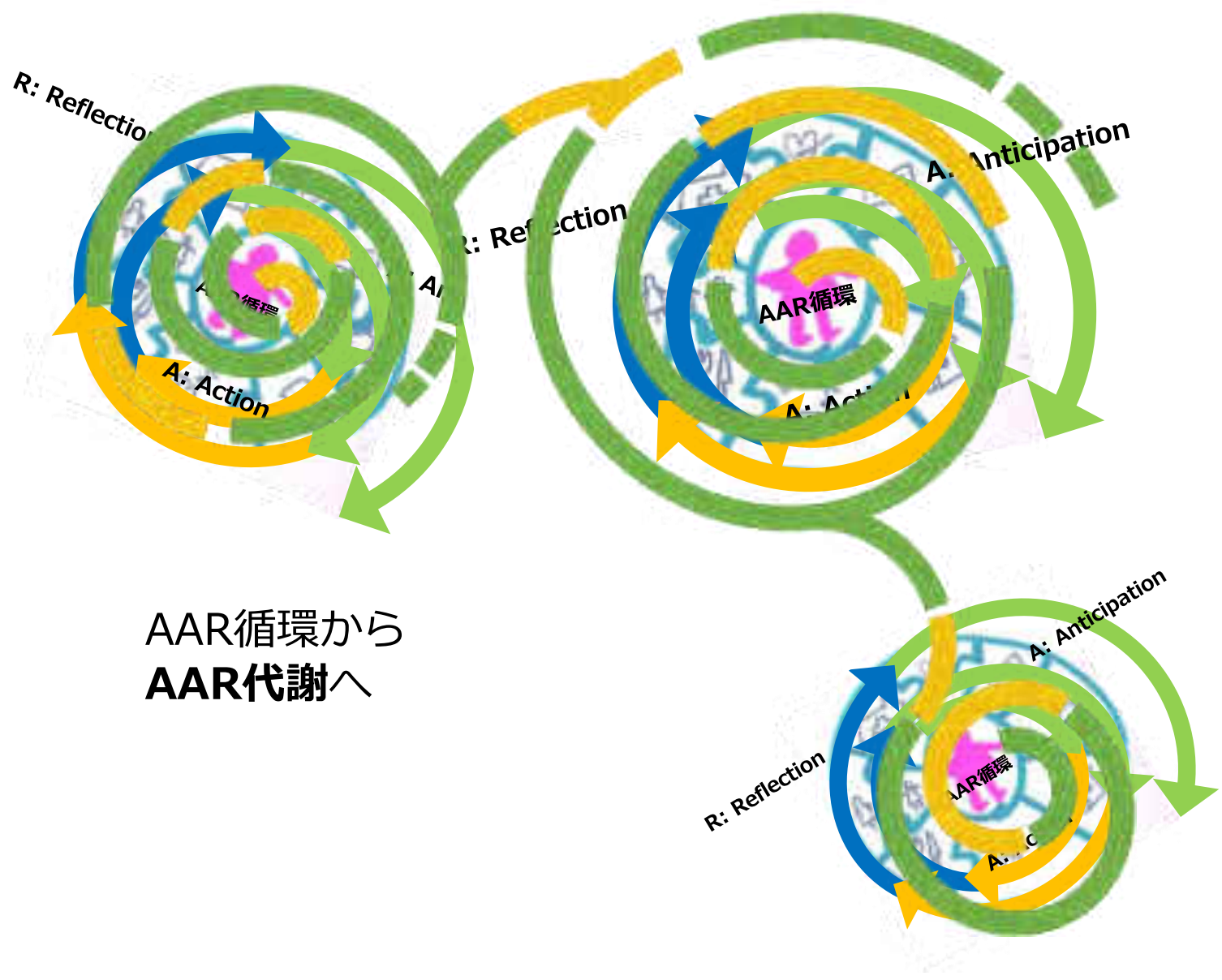
R: Reflection

A: Anticipation

AAR循環

A: Action





AAR循環から
AAR代謝へ

人を切り分ける社会



人と人との「かかわり」を紡ぐ社会へ

9. 労働者協同組合という担い手

恩送り

人生100年時代: おとなも子どもも学び続ける社会へ
⇒ 「よきこと」に気づき、実践する
「かかわりあい」が公共財となる社会へ

**「ふるさと」とは「ひと」: おとなが子どもにかかわることで
子どもはおとなを「ふるさと」にする
おとなが「ふるさと」になった故郷
= 本当の「ふるさと」**

人生100年時代を生きぬく

そのために

みんなが、みんなで、みんなのしあわせをつくる社会へ

ちいさなしあわせを贈りあい、重ね合う社会

By Allの社会

労働者協同組合は

**一人ひとりが「はまる」「まきこむ」「つくる」媒介
By Allの主演**

自己決定・意志決定を基盤とする働き方

⇒ **Compassionate Community**

⇒ **社会の地下水脈として**